

名古屋 文化情報

2016
1・2
January/February

No. 366

NAGOYA
Cultural
Information

随想／西野 淳（ミュージカル指揮者） 視点／名古屋学生能楽連盟 60 周年
この人と…ズームアップ／阿部 大介（美術家） いとしのサブカル／小栗 徳丸（世界コスプレサミット実行委員会 委員長）



2016

1・2

January/February

Contents

名古屋市民文芸祭 受賞作品..... 2

随想 デビュー公演の思い出
西野 淳(ミュージカル指揮者)..... 3

視点
名古屋学生能楽連盟60周年..... 4

この人と・・・ズームアップ
阿部 大介(美術家)..... 6

ピックアップ
「わが人生を文字に賭けて」..... 8

いとしのサブカル 名古屋を「コスプレの聖地」に
小栗 徳丸(世界コスプレサミット実行委員会 委員長)..... 9

おしらせ..... 10

「なごや文化情報」編集委員

- 倉知外子 (現代舞踊家)
- はせひろいち (劇作家・演出家)
- 森本悟郎 (表現研究・批評)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽと代表)
- 米田真理 (朝日大学経営学部准教授)
- 渡邊 康 (椋山女子学園大学教育学部准教授)

表紙

作品

No.56 Real/Red さくらと星辰

(2011年/キャンバス、油彩、岩絵具、水彩/162.0×130.3cm)

わが国の自然の営みのきびしさに、嘆息したくなる時がある。だからこそ、やさしい春のさくらに心ひかれるのだろう。人間界の約束は不確定である。しかし、満開を迎える花の約束は、私たちを裏切ることはない。



関 智生 (せき ともお)

1965年 奈良県に生まれる
1998年 愛知県新進芸術家海外留学等補助事業研修員
2000年 ノッティンガム・トロント大学にて修士取得
2011年 桃源万歳! 岡崎市美術博物館
Gallery OUT of PLACE、masayoshi suzuki gallery にて個展多数

「2014年 名古屋市民文芸祭」
〔第六五回名古屋短詩型文学祭〕小・中学生の部
詩の部 受賞作品より ※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市会議長賞◆ 名古屋市長 立森孝 中学校1年

片岡 優太

夜 それはなんのこと

夜 それはあつまつた人の影に影に影

夜 それはこころの闇

闇をてらす月光 光光光 月月月

月光をさえぎる人の影に影に影

夜 それは夢

幻想 想像 幻か 幻 夢の夢に夢

夢で泣く人 笑う人

それをうつす目 脳 脳脳脳

考える脳

夜 それは幽霊の遊び場

遊び遊び遊び墓へ 墓へ墓にただの石へ

夜 それは光をめだたせる裏 裏の裏の裏

夜 それは独り 悲喜悲喜 喜喜喜に悲

夜 ブラックなドッベルゲンガー

夜 それは僕をつつむ無限な世界

随想

デビュー公演の思い出



にし の じゅん

西野 淳(ミュージカル指揮者)

愛知県立芸術大学音楽学部作曲科卒業。
東宝・劇団四季・宝塚・ホリプロなどのミュージカル公演で指揮者として活躍中。
第21回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞。

1992年3月3日。私が東京の青山劇場で宮本亜門演出・大地真央主演の東宝ミュージカル「サウンドオブミュージック」を指揮し、ミュージカル指揮者としてデビューした日。

それまでオペラの仕事は色々経験していたが、本格的なミュージカルは指揮した事もなく、ミュージカルというものをかなり甘くみて稽古場へ入った記憶がある。

出演される大地真央さん、村井國夫さん、酒井法子さんなど、初めて間近で芸能人を見て最初の数日は浮かれていたのだがその後すぐに地獄を見る事に。オペラは指揮者主導でほぼ全てが進んで行くが、ミュージカルでは役者主導で音楽が合わせる場面が数多く出てくる。

動きに合わせて音を出す、芝居に合わせてBGMを指揮する、場面の進行に合わせて音楽を作る…これらが全く出来ない。

オペラは音楽のカテゴリーに入るがミュージカルは演劇のカテゴリーに入る。

つまり芝居の流れや演者の呼吸を感じて読み取る能力が必要だったのだ。

毎日の稽古で自分の力の無さを痛感させられ、家へ帰って悔しくて涙する日々が続く。

そしてオーケストラ入りの稽古。

真央さんが体をくると回転させるのに合わせて装飾音符付きの四分音符を入れるのだが、これが何度やっても出来ない。

オーケストラと真央さんをつき合わせてその部分だけ何度も練習。

5回、10回…出来ない!

後ろから見ていた演出の亜門さんが小声で「西野! がんばれー!」

そして15回目にやっと成功!その瞬間に稽古場中が拍手と歓声に包まれた。

私がミュージカル初心者の若僧だとわかっていて、カンパニーの皆さんは温かく辛抱強く見守ってくださっていた。

当時はあまりの自分の不甲斐なさに落ち込み精神的にかなり追い詰められていたが、いま考えると絶対にあり得ないくらい優しく温かい目で見守られていたデビュー公演であった。

なんと驚沢な話で、ミュージカルのミの字も知らない時にいきなり日本最高レベルのカンパニーに参加して、最高の現場で「ミュージカルとはこういう物だ!」と一から手取り足取り教えていただいたわけだ。

当時この公演に指揮者として誘ってくださった音楽監督の竹本泰蔵さんとこの温かいカンパニーの皆さんのおかげで今の自分がある。

あれから23年。

今では年間約300公演をこなすミュージカル指揮者になったわけだが、デビューだったこの仕事を引き受けた直接の動機…それは、実は、生のリピーを見てみたかったからだったということは皆には内緒の話(笑)

人生どんなキッカケでどう転がっていくかわからないものだ。

名古屋学生能楽連盟60周年

能(仕舞・謡)や狂言を稽古する名古屋近郊の大学・短大生の組織「名古屋学生能楽連盟(以下、名能連)」が、今年度で60周年を迎えた。今回はその歩みを、現在、名能連と関わりの深い能楽師の方の言葉を交え、綴ってみたい。(まとめ:米田 真理)

発足のころ

名能連は昭和31年(1956)、名古屋大・愛知大・南山大・愛知県立短大・名古屋市立大の5校で発足し、翌年1月20日、第1回の「学生能と狂言の会」が開かれた。当時は自演の部と鑑賞の部の二部立てで、高校生の出演もあった。

愛知県立女子大(現在の愛知県立大)出身で、シテ方宝生流の能楽師・竹内澄子さんは、高校2年生のとき第1回大会をご覧になった。「担任の先生が宝生流の内藤泰二先生に習っていたのです。内藤先生は中学校の先生だったので、学生への指導にご熱心でした」。竹内さんはそれを機に高校、大学と能楽部に所属、さらに能楽師の道を歩まれ、現在は愛知県立大と愛知教育大を指導されている。まさに、名能連を一からご存じなのだ。

学生能の拡がり

名能連の発足から15年の間に、名古屋市立短大、椋山学園大、金城学院大、岐阜市立女子短大、愛知学芸大(現在の愛知教育大)が次々と加盟し、連盟員は190名を超えた。発足当時は約10%だった大学・短大進学率が、高度経済成長の中、一気に20%台を駆け上っていく時期と重なる。

この勢いを象徴するかのよう出来事が、昭和44年、第13回大会での名大観世会によるオール学生能《船弁慶》の実現だった。このときシテをつとめた柳原富司忠さんは、卒業後、幸清流小鼓方として第一線で活躍するとともに、学生の指導に情熱を注ぎ続けた。

少数精鋭の時代

昭和49年、第18回大会は、過去最多の能五番と狂言一番が出される盛況ぶりだった。だが、実は、この2ヶ月前には第一次オイルショックが勃発していた。以後、世相は物価高騰や省エネムードに覆われ、学生にとっては就職難の時代が何年も続く。こうした影響もあってか、名能連では、加盟校の脱退や会長の不在といった不安要素が見られるようになり、会員も徐々に減少し、ついに昭和60年には60名を切ってしまった。



◀ 昭和最後の大会・昭和64年1月6日名古屋大 能《敦盛》(翌々日から「平成」になった)



「学生能と狂言の会」 10周年・20周年パンフレット

それだけにいっそう、学生たちの能に向かう情熱は強かったようだ。昭和60年に愛知大学能楽研究会(金春流)に入部された、笛方藤田流の大野誠さんは「和気あいあいというよりは、体育会のノリだった」と語る。愛知大では、部員がシテと地謡をつとめる能を毎年実現するのがモットーだった(大野さんは3年生のとき《羽衣》のシテをつとめた)。そのため練習は厳しく、昼休みと授業の合間はすべて稽古に費やし、部の外には友人ができないほどだった。そして、大野さんはさらに、もともと囃子に興味があったことから個人的に笛を習い、この道に進まれたのだ。

活躍するOB・OGたち

昭和61年、世間は「バブル景気」に突入し、各地で薪能ブームが起こった。30周年を迎えた名能連も、名古屋城夏まつりや犬山の鶺鴒船といった、薪能での舞台を経験した。平

成元年大会では16年ぶりに能五番が出され、同3年には名古屋市立大、同5年には名古屋女子大が加盟するなどし、会員数は再び100名を超えた。

だが、バブル崩壊、「失われた10年」…と経済状況が変化、就職氷河期が到来した。だからというわけではないかもしれないが、この時期以降、卒業後に能楽師の道を選んだ方が続いて見られるようになる。平成5年に名大観世会に入部された太鼓方観世流の加藤洋輝さんは、卒業後、企業に就職した。1年が経ち、そろそろ仕事に迷いが生じてきたころ、それがまさに、国立能楽堂の能楽研修事業の、6年に一度しかない太鼓方観世流募集の年だったことが、太鼓に専心するきっかけだった。そして、加藤さんの1年下の、狂言方泉流・鹿島俊裕さん(名古屋大)、また、さらに4年下の、シテ方観世流・吉沢旭さん(南山大)と、能楽の道を選んだ会員が続いていく。



20世紀最後の大会・平成12年(2000年)1月8日
梶山女学園大 能<加茂>と連調

もっとも、この時期に限らず名能連出身の能楽師は多数、活躍中だ。シテ方宝生流・玉井博祐さん(南山大)、シテ方観世流・山本正人さん(南山大)、同じく鶴克彦さん(日本福祉大)は、ベテランといえる存在で能楽を支えている。また、若い世代では、シテ方金剛流・鈴木昌美さん(梶山女学園大)、同

じく加藤かおるさん(梶山女学園大)、さらに、シテ方観世流・角田尚香さん(梶山女学園大)、同じく伊藤裕貴さん(名古屋大)などが活躍している。

学生能への期待



和やかながらも真剣なお稽古
(岐阜市立女子短大 現役のみなさん)

学生能が活動を続け、舞台を出すことができる背景には、「薄謝」で稽古を引き受けたり、装束を貸し出したりしてくれる能楽師の方々や、物心両面から支援してくれるOB・O

Gなど、様々な人の助力が欠かせない。いま、能楽に限らず学生のサークル活動そのものが活気を失っていると言われるが、名能連の歴史を振り返ると、時代の波に飲み込まれながらも連綿と続いてきたことが知られ、心強い。

「全国学生能楽コンクール」に関わりの深いシテ方観世流・久田勘鷗さんは、学生能への期待をこう語る。「自分自身が上達を目指すことで、能の目指す高い芸術性を感じてほしい。そして、卒業後も稽古を続け、日本の誇る伝統芸能に携わっていったら」。前出の加藤洋輝さんも「次の世代に能楽を伝える役割があることを自覚してほしい」と期待を込める。

そして、大野誠さんは「能に限らず何かに一生懸命取り組むことは、きっと将来の自分につながるはず」とエールを送る。これこそ、現役学生への最大のエールとなるだろう。名能連のこれからは楽しみである。

60周年記念大会

名能連では現在、愛知教育大、愛知県立大、岐阜市立女子短大、金城学院大、梶山女学園大、名古屋市立大、名古屋女子大、名古屋大、南山大(五十音順)が活動している。活動の様子をツイッターやフェイスブックなどで発信している部もある。大きな節目となる今年度、2月13日(土)に名古屋能楽堂で、OB・OGを交えた60周年記念大会が開かれる。世話人の小関真実さん(愛知教育大)は「先輩方の盛り上がりに応えられるよう、いい舞台にしたいです」と意気込みを見せてくれた。

本稿を成すにあたり、名能連40周年記念大会パンフレット(平成8年)所収「名能連40年史」(名古屋市立大 三浦敏靖さん作成)を参考にしました。

この人と... ズーム・アップ

「ズーム・アップ」は、現在活躍中の若いアーティストを取り上げる「この人と...」の特別企画です。



美術家

あ べ だ い す け
阿部 大介さん

版画概念拡張の担い手として

浮世絵に代表されるわが国の版画は江戸時代に独自の発達を見せたが、幕末から明治にかけて銅版や石版など西洋版画が流入するに及び、その世界は一挙に表現の幅を広げた。近年は新しい素材やメディアを縦横に駆使して、版画の概念を大きく拡張しようとする若い世代の活躍が著しい。阿部大介さんは注目すべきそのひとりである。岐阜県・美濃加茂市民ミュージアムでの個展を終えたばかりの阿部さんに話をうかがった。
(聞き手:森本悟郎)

出発点は銅版画

1977年に京都で生まれた阿部さんは2002年に京都精華大学芸術学部造形学科を卒業し、2004年に愛知県立芸術大学大学院美術研究科を修了している（ともに版画専攻）。「もとはデザイン志望だったけれど、入試にことごとく失敗して、美術に方向転換しました」とはいうものの、「当時、自分が進みたいメディアや方向性を全然イメージできていなかった。版画にとくに興味があったわけじゃないけれど、精華の版画は写真や映像など様々なメディアを授業に取り入れているという情報を聞いて受けてみた」。精華大では「リトグラフから銅版画まで授業ではひと通りやっていたのですが、授業以外では映像編集に興味を持ち、大学の映像編集室に頻繁に出入りしながら映像の制作や発表を行う日々でした」。しかし「卒業が近くなったとき、版画で卒業制作を出さないと、ということになって、その頃から銅版画を集中してやり始めました」。

愛知県立芸大で独自の方法を生み出す

愛知県立芸大大学院には銅版画で入ったが、「版画にかかわらずさまざまな技法や素材に対する興味やアイデアが生まれるようになった。指導教員の倉地（比沙支）先生は版画以外の手法にも寛容で詳しく、今の仕事につながるような制作方法を模索できる貴重な時間になった」。〈今の仕事〉というのは、作家自らが造型したものではない既存の立体物の表面を型取りし、それを樹脂系素材に置き換えた立

体作品と、立体物の表面の凹凸に詰め込んだインクを樹脂系素材の皮膜に転写し、それを紙の上に貼り込んだ平面作品のことである。前者は塑像の、後者は銅版画の制作過程を想像させるが、「版画に向き合う」という版画の仕事を通して獲得した、「皮膚に対峙しているような感覚を拡張していった」ところから生まれた方法である。



無題 / 100×65×30cm / 2007年 /
発泡バインダー、染料、ハンガー

モチーフが人工物から自然物へ

これまでの作品モチーフは身近な人工物、たとえばスニーカー、椅子、手袋、タイヤ、古着などで、センチメントを排した即物的なものだった。それは「そこに自分の感情が入り込むと作品として自立できないんじゃないかという感覚があって、性別、年齢など異なるどんな立場の人でも共有できるモチーフを選べたらなという思い」から、「思い入れが強いものや意味が過多になるものは敢えて避けて、近くも遠くもな



「皮膚感覚」展 美濃加茂市民ミュージアム
企画展示室・美術工芸展示室 写真撮影：城戸保

のようなモチーフを選んでいた」ことによる。

だが、美濃加茂市民ミュージアムでの『現代美術レジデンスプログラム 阿部大介展 皮膚感覚』（2015年9月12日～10月25日）では自然物である樹木を初めてモチーフとした。今まで自然物を避けてきた理由としては、「自然の造形物には太刀打ちできないだろう」ということ、そして作品については「人工物が有機物に変わっていくというイメージが常にあり、工業製品的なものが人肌だったり、生物的だったり、皮膚の感覚が宿るというイメージ変換」に興味があったので、「自然物がまた有機的になると、コンセプトとしてずれるかなというのがあった。今回、積極的に自然物を扱ったのは、美濃加茂の展覧会が〈自然〉をテーマにしたレジデンスプログラムで、自然と対峙してみたらどうなるか積極的にやってみよう」と考えたからだ。展示も特筆すべきで、モチーフとした樹木と、型取りした作品が隣接した二つのブースに鏡像のように配置されるとともに、立体作品と平面作品の空間のわけ方など、会場そのものが作品化していた。この展示では今回モチーフとなった樹木は切り取られた、あるいは朽ちたものだが、これまでの作品に比べれば巨大である。しかしさらに大きな立木そのものを対象にするという可能性もあるのか尋ねてみると、即座に「できますね」。



「皮膚感覚」展 美濃加茂市民ミュージアム 企画展示室・美術工芸展示室
写真撮影：城戸保

今度は〈家〉に取り組む

阿部さんは「ファン・デ・ナゴヤ美術展2016」（2016年1月8日～1月24日、名古屋市民ギャラリー矢田）に美術家の鷹野健さんと『記憶のはがし方プロジェクト一日

本 家』展で臨む。これは岐阜県美濃加茂市にある民家の外面を全て型取りし、その写しとられた家の膚を会場に展示するという、途方もないプロジェクトである。「物質の変容や痕跡から記憶や時間を可視化させる試みで、手に負えないほど大きなものにアプローチすることで、自分たちではコントロールがきかない方向に作品が動きだすことへの期待と興味」をきっかけに、この家を型取りするプロジェクトをはじめたという。「美濃加茂の樹とかも、できるだけいままでの作品と違うスケールのものにトライして、コントロールできない状態にもって行けたらという思いもあったのですが、そういう意味ではコントロールしすぎた面もあったのではないかと。作品として整いすぎた」という、そんな反省も要因のようだ。

ただ今回のファン・デ・ナゴヤ美術展2016でやっている仕事は、「これまでの自分の仕事とは異なり、社会との接点を探るといって、そういう方向に持って行けたら」と考えている。つまり「家を探すのもすごく労力が要ったり、人との関係も重要になってくる」ということで、「そんなところを作品として観てもらったり、人との繋がりができたりしたらいいなと思ってやっている」。

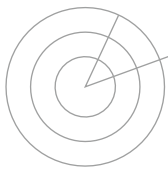


記憶のはがし方プロジェクト - 日本 家/公開制作、展示/三和町

ふたたび銅版画制作も

インタビュー場所は瀬戸市内の元陶磁器会社倉庫を転用した共同アトリエ内、阿部さんのブースである。そこには使い込んだエッチング・プレス機が据えてあった。先頃、二見彰一氏から譲り受けたものとのこと。これを機に、銅版画を再開したいという。銅版画は「使いつくされた古いメディアかも知れないけれど、まだまだ新たな表現の可能性があると思う」から、家のプロジェクトのような「外に広がっていく仕事と、銅版画のように内にベクトルが向かうような仕事の両方をやっていきたい」。銅版画と今の仕事との「両方を行き来しながら相互作用から新たな展開が生まれればと。現段階では型取りの仕事と銅版画と一緒に展示する機会はないですが、一見違う表情を持つ作品が、いつか地続きで全然違う作品としてつながって欲しいなという期待もあります」。その日が来るのを楽しみに、これからも阿部さんの仕事を見つづけたい。

ピックアップ



「わが人生を文字に賭けて」

昭和47年秋、中日新聞社会部に初の女性記者が誕生した！その名は、元中日新聞社の阿部孝子さん。女性の社会進出のパイオニアとして、生涯一記者の人生を颯爽と駆け抜けた。「わが人生を文字に賭けて」と題して、仕事に青春の全てを賭けた阿部さんの一代記が2015年5月に刊行された。21歳から75歳までの54年間のジャーナリスト人生。校閲部の修行時代から社会部を経て文化部音楽担当に異動し、そして芸能部ができた頃から名古屋の文化関係、多くの著名な歌手、演奏家、舞踊家などとの交流が広がり、ジャーナリスト人生を華やかに彩ったといえよう。「中日の阿部ちゃん」として知られている有名人であったが、現在は年齢を重ねて余生を穏やかに過ごされていると聞く。

その著書の内容は、ジャーナリスト修行中の出来事や、記事のスクラップをまとめたもの、今ではあまり描かれない記者の日常茶飯のことなど、文章を通じてその当時の女性の働き方を感じることができる。また、名古屋フィルハーモニー交響楽団の誕生から10年にかけての歩みも詳しく語られている。阿部さんが名フィルと深く係わるようになったのは、音楽担当の記者であったことと、自らがクラシック音楽の鑑賞、歌う事が好きであったことが大きい。某高校音楽科卒業だったこともあり、水を得た魚のようであった。名フィルの草創期のころ、名古屋にプロ・オーケストラが欲しいという機運が高まり、任意団体が発展して、昭和42年10月に、第1回定期演奏会が開かれた。そして、昭和48年4月に財団法人としてスタートして現在に至る。さまざまな艱難辛苦を乗り越えた48年間

の歴史を感じ、現在、名古屋市民のための交響楽団として定着していることの布石を知ることができる。また、世界を飛び回って取材した「世界のマーケット」は、女性ならではの視点で書かれている。平成9年から15年までは、東京新聞の企画「名作散歩」の取材チームの一員として携わった。昭和年代の人達が口ずさんでいた唱歌（「荒城の月」「花～すべての人の心に花を～」）「牧場の朝」など23曲）の誕生秘話も興味深い。そして、最後には「私はコミュニケーションの中で鍛えられた。未熟な私を支えてくれたものは、数え切れないほどの多くの人々との出会いがあり…」「記者人生としては、十分過ぎるほど充実した54年間に満足している」と締めくくられている。(K)



新葉館出版 「わが人生を文字に賭けて」
定価 本体1400円+税

いとしの サブカル

名古屋を「コスプレの聖地」に

世界コスプレサミット実行委員会 委員長

小栗 徳丸

名古屋市生まれ。株式会社WCS 代表取締役、和歌山大学 産学連携研究支援センター アドバイザー兼任。

テレビ愛知在局時に番組の企画として「世界コスプレサミット」を立ち上げ、2013年より実行委員長を務める。

世界コスプレサミットは名古屋で開催するコスプレをテーマにした国際イベントです。

毎年7月下旬から8月上旬にかけて開催し、今年(2016年)で14回目となります。

目玉イベントである「ワールドコスプレチャンピオンシップ」は世界中から各予選を勝ち抜いた2人1組の代表コスプレイヤー達が、日本のアニメ・マンガ・ゲーム・特撮のキャラクターの衣装を制作し、パフォーマンスや作品愛を競う大会で、昨年の開催時には26の国・地域から計52名の代表者達が名古屋に集結しました。

近年、「クールジャパン」という言葉が流行するほど、日本のポップカルチャーが世界中から注目を浴びていますが、それらが海外進出したのは最近ではありません。

1963年にアメリカで放映された「鉄腕アトム」をきっかけに、その後ドラゴンボールやセーラームーンなど多くの日本コンテンツが翻訳・発信され、世界中のファンを獲得しました。

日本の作品は海外の作品と比べ、登場人物への感情移入がしやすく、大人でも楽しめる作品が多いことが、国境や世代を超えて多くの人たちから愛される理由だと思えます。

またインターネットの発達から、より多くの若者たちが、日本のコンテンツに触れる機会が増えた事も「クールジャパン」ブームの大きな要因でしょう。

現に日本のオタクコンテンツをテーマにしたイベントは世界中で年間1000を超える数と言われ、市場はますます拡大しています。

世界コスプレサミットに出場する各国の代表者達は、開催期間における約10日間、日本を含めた多国籍の若者たちと国際交流をします。

初対面で言葉も通じない彼達ですが「好きな作品」や「コスプレイヤーである」というお互いの共通点から、ハイコンテクストなコミュニケーションで、すぐに仲良くなる事が出来ます。

彼らは作品を通じて、好きなキャラクターの背景にある日

本に憧れを持っています。

訪日経験や、日本語を堪能に話すことが出来る代表者もいます。

「LOVE JAPAN」の心を持っている事も彼らの共通点の一つであると言えるでしょう。

昨今、訪日観光客の増加などのニュースが飛び交っていますが、日本のポップカルチャーも訪日観光の大きな柱になっていくと思います。

実際にアニメの舞台となった名所を巡る聖地巡礼や、コスプレ体験などを旅行目的とする訪日観光客は特に若者が多いのです。

今後彼らがリピーターになる可能性は高く、様々な日本の魅力を自国で発信してくれるアンバサダーとしての役割を担います。

私は2020年のオリンピックイヤーを目標として、更なる日本の新文化の発信と「日本が大好きな外国人」を増やしていきたいと考えています。

フランスのカヌヌが映画祭開催地として有名であるように、名古屋が世界コスプレサミット発祥の地として、世界中のコスプレイヤー達が「コスプレの聖地」として訪問し、年間を通じて楽しめる場所にしたいと思います。



©WORLD COSPLAY SUMMIT 2015

名古屋市文化振興事業団2016年企画公演

MEREDITH WILLSON'S
**THE
MUSIC MAN**

ミュージカル『ザ・ミュージックマン』

名古屋市文化振興事業団では、毎年、地元で活躍する音楽・演劇・舞踊をはじめとする舞台人の総力を結集し、新しい可能性を追求する企画公演を開催しています。1985年の「三文オペラ」を皮切りにミュージカルやオペレッタをオーディションで選ばれた地元のキャストと地元スタッフとともに上演してきました。32回目を迎える今回は、1957年にブロードウェイで初演され、1958年にあの「ウエストサイド物語」を抑えてトニー賞作品賞を含めた8部門を受賞した名作ラブ・コメディミュージカル「ザ・ミュージックマン」を上演します。

「ザ・ミュージックマン」は、アメリカのアイオワ州リバー・シティという田舎町に現れた詐欺師ハロルド・ヒルが、町の美しい音楽教師マリアンと出会ったことで音楽を通じて人々の心を開いてゆく、笑いあり涙ありのハートウォーミングな物語です。どうぞご期待ください。



【上演台本・訳詞・演出・振付】

荒巻 正

(あらまき ただし)

東京都出身。1983年劇団四季付属演劇研究所を経て劇団四季入団。その後、正劇団員として数々の作品に出演。1995年退団。

1996年、劇団スイセイ・ミュージカルの発足に参加し、俳優を務めると共に創作分野に進出する。

演出・振付作品には「夢のタイムリミット」「夢があるから」(平成12年度文化庁移動芸術祭参加作品選定) 翻訳上演「FAME」等がある。2001年よりフリーランスとして活動を始め、「パーフェクト・ファミリー!」「海底ホスピタル」「True Present」等を演出、振付。近年では脚本も執筆し「Sylphy」「WISH-チューリップ物語-」「風花の葉」等を創作している。

「ザ・ミュージックマン」日本ではあまりポピュラーな作品ではないにもかかわらず、この響きの良いシンプルなタイトルから、それはそれは極上のエンターテインメントが想像されませんか? それも、ミュージカルの要たる「ミュージック」をタイトルにもってくるどころなど、創作人の熱い想いを感じずにはいられません。それは期待を裏切ることなく、全編を彩る楽曲も、恋するメロディから、人生を鼓舞するリズムから、心を癒してくれるハーモニーまで、なんともカラフルでポリューミー。それでこそそのミュージックマン、そこにはまさに「音楽」への憧れと敬意がぎっしりと入魂されていたのです。しかも、ミュージカルはこうでなくっちゃと思えるようなメルヘンチックでハッピーな物語。「ザ・ミュージックマン」はある意味、「ザ・ミュージカル」なんです。1950年代からのアメリカン・ミュージカルがお客様を楽しませようとどれだけ奮闘していたことが! その表現のフィールドはやがて、人種差別による悲恋、ダンサーのバックステージ、猫の世界、フランス革命、HIV感染まで展開してゆくわけですが、ひたすら楽しく愉快なラブ・コメディこそ、普遍の王道なのかもしれません。皆様、どうぞ劇場で、この愛嬌とユーモアにあふれた、愛すべきミュージカル「ザ・ミュージックマン」をお楽しみください。



【音楽監督・指揮】

小島 岳志

(こじま たけし)

1997年愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業。フルートを故加藤敏、峰岸壮一、村田四郎の各氏に師事。大学在学中より指揮活動を始め、名古屋二期会・名古屋オペラ協会・三重オペラ協会・名古屋芸術大学・四日市市民オペラ・三河市民オペラ・名古屋アクターズスクールなど、多数の舞台公演に参加。名古屋市文化振興事業団企画公演では、2010年9月にミュージカル「海の向こうに」、2015年2月に同じくミュージカル「ライト・イン・ザ・ピアッツァ」(ともにセントラル愛知交響楽団)を指揮し好評を博す。ジャパン・ウィンド・アンサンブル、一宮市消防音楽隊(ともに吹奏楽)の指揮者を歴任。桐朋学園大学にて指揮を黒岩英臣氏に師事。同朋高校音楽科非常勤講師(合奏担当)。

吹奏楽ファン、必見!!「76本のトロンボーン」・・・それは私のような年代の吹奏楽経験者にとっては、大変思い出深く、コンサートの定番レパートリーとしてかけがえのない一曲です。吹奏楽のポップス・レパートリー拡大に現在も貢献している「ニュー・サウンズ・イン・プラス」第12集のひとつとして、1984年に岩井直博氏の編曲によって出版されました。私自身も高校生時代に何度も演奏(ピッコロ)し、指揮をした懐かしい思い出があります。ところが誠に情けなく、恥ずかしい話ながら、この曲の出処を今回「ザ・ミュージックマン」の指揮を担当して初めて知り、「ああ、そうだったのか!」と改めて思う次第であります。

吹奏楽のコンクールや演奏会では、オペラ・オペレッタ・ミュージカルのいい所取りをした編曲がよく演奏されますが、それが上演に一本2~3時間かかる舞台作品の中で、一体どういった意味を持つ曲なのか、演奏者全員が完全に理解して演奏するのは、なかなか大変な作業です。今回の「ザ・ミュージックマン」はプラスバンドをひとつの題材としたミュージカルです。吹奏楽に携わる多くの方々には足を運んでいただけたら幸いですし、もちろん、もともとミュージカルなどの舞台作品のファンの方にも、素晴らしいキャラクターの出演陣によって、ご満足いただけること間違いなしです!!

MEREDITH WILLSON'S THE MUSIC MAN



日 時 / 2月19日(金) 18:30

2月20日(土) 11:00、16:00

2月21日(日) 11:00、16:00

会 場 / 名古屋市青少年文化センター・アートピアホール
[ナディアパーク11階]

料 金 / S席4,000円、A席3,000円(全指定席)

※事業団友の会会員、障がい者手帳をお持ちの方、大学生以下は2割引
(事業団チケットガイド及び事業団が管理する文化施設での前売りのみ・購入時に会員証
または障がい者手帳、学生証等をご提示ください。)

原作 / メルディス・ウィルソン、フランクリン・レイシー

脚本・作詞・作曲 / メルディス・ウィルソン

上演台本・訳詞・演出・振付 / 荒巻 正 音楽監督・指揮 / 小島岳志

管弦楽 / セントラル愛知交響楽団

主催 / 公益財団法人名古屋市文化振興事業団

あらすじ

ハロルド・ヒルと名乗る音楽教授がアメリカのアイオワ州リバー・シティという小さな町にやってくる。実はハロルドは、楽譜も読めないのに子どもたちに音楽を教え、バンドを結成して楽器や制服を売りつける詐欺師だった。そんな彼がこの町で美しい音楽教師マリアンと出会う。彼女に気に入られるために本気でバンドを結成しようとする彼に、最初は不信感を抱いていたマリアンや町の人々は次第に心を開いてゆく。しかし町の人気者になった彼を良く思わないリバー・シティの市長や昔の商売敵の手によってハロルドは過去の罪を暴かれピンチに陥ってしまう。最後に彼の危機を救ったのは…

出演

ハロルド・ヒル / 塚本 伸彦、荒川 裕介

シン市長 / 杉本 明朗

ユーラリー・シン / 小嶋 彩子

チャーリー・カウエル / 川瀬 邦成

ウインスロップ / 丹羽 一志、川 大智

ザニータ・シン / 森田 佳花

マリアン・パルー / 加藤 恵利子、伊藤 沙緒里

パルー夫人 / 飯野 久美子

マーセラス / 市川 太一

トミー・ジラス / 栗原 勇智

アマリリス / 加藤 希果、松田 七海

グレーシー・シン / 久保 沙綾

教育委員会カルテット / 宮崎 智永、水谷 彰宏、帖佐 亮輔、高井 翔太

おしゃべり好きな夫人たち / 西脇 瑞紀、目次 恭子、高見 侑加、山崎 未友季、コリ 伽路、三島 早稀、山田 紘子、山田 美波

ロック巡査 / 園田 裕史

車掌 / 小坂橋 秀和

リバー・シティの人々 / 石川 敦貴、一木 三花子、上井 雅子、奥村 響、加藤 武志、川島 優理、高橋 ケンヂ、出口 稚子、永田 萌、平野 萩、堀 拓哉

リバー・シティの人々(子役) / 古賀 雄大、世古 真凜、中山 ひまり、野口 蒼生、山西 日和

※キャストिंगを都合により一部変更する場合があります。

～ 関連事業のご案内 ～

ミュージカル「ザ・ミュージックマン」稽古場見学会

いよいよ稽古も大詰めとなる2016年2月、本番に向け、スタッフ・キャストが一丸となって、日夜奮闘中! 寒さにも負けず、稽古場では熱気が高まっています。普段見ることのできない、ミュージカルの稽古場を覗いてみませんか?

日 時 : 2月6日(土) 14:00

会 場 : 名古屋市演劇練習館(アクテノン)リハーサル室

定 員 : 先着30名(1グループ5人まで)

料 金 : 無料

申込方法 : 友の会会員様先行受付 1月7日(木) 9:00～
一般受付 1月8日(金) 9:00～

申 込 先 : (公財)名古屋市文化振興事業団チケットガイド
TEL 052-249-9387(平日9:00～17:00)

名古屋市文化振興事業団 主催事業

1月

2月

3月

チケットは、好評発売中です。

1月から3月にお届けするバラエティーに富んだ公演をお楽しみ下さい。

春風亭小朝 新春独演会



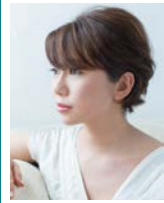
日時
1月21日(木) 【昼の部】14:00(13:30開場)
【夜の部】18:45(18:15開場)

会場
青少年文化センター・アートピアホール
TEL 052-265-2088

料金 (全指定席)
1,800円(事業団友の会会員限定販売)
※未入会の方は入会手続きが必要です。
※会員様お一人につき3枚まで購入可能。
※未就学児の入場はご遠慮ください。

事業団友の会会員様のみがご来場できるチャンス!
その日の客席の雰囲気によって演目を間際に決めて行うという、ライブ感を重視した内容でお届けする人気企画。ぜひこの機会にご入会ください。

ウィリアムス浩子が贈る 星空ロマンスコンサートvol.2



日時
2月4日(木) 18:30(18:00開場)

会場
守山文化小劇場
TEL 052-796-1821

料金 (全指定席)
一般 2,300円 学生 1,000円
(友の会会員1,800円)
※未就学児の入場はご遠慮ください。

チケット 276-987
日本が誇る歌声として注目を集めるジャズシンガー・ウィリアムス浩子が、名古屋市科学館学芸員による天文解説とのコラボレーションで贈るジャズコンサートです。昨年「七夕をテーマに開催し、SOLD OUTした人気公演の第2弾。冬の澄んだ夜空にキラめく星や月の下、大切な人とステキな夜を過ごしませんか?」

プロとつくる舞台〜ポップ・ステップ・ジャンプ〜 朗読劇「見上げれば、いつも満月〜新美南吉『ごんぎつね』より〜」



日時
1月16日(土) 14:00(13:30開場)

会場
名古屋市芸術創造センター
TEL 052-931-1811

料金 (全自由席)
1,000円
(友の会会員・障がい者800円)

オーディションをくり抜けた皆さんが、演劇のプロとともに舞台をつくります! 新美南吉「ごんぎつね」を題材に、地元劇作家 刈馬カオスが作品を書き下しました。

活動写真弁士・澤登翠の無声映画の世界 〜世界三大喜劇王 キートン・ロイド・チャップリン〜



日時
3月12日(土) 13:30(13:00開場)

会場
瑞穂文化小劇場
TEL 052-852-7001

料金 (全指定席)
一般 1,000円 学生 800円
(友の会会員800円)
※未就学児の入場はご遠慮ください。

チケット 554-798
日本活弁士界の第一人者として世界を舞台に活躍する澤登翠による、無声映画の上映会。「文藝春秋」の「日本を代表する女性120人」にも選出されたその実力は必聴!上映作品も世界三大喜劇王キートン・ロイド・チャップリンの豪華3本立てでお贈りします。

チケット 取扱い

- **名古屋市文化振興事業団チケットガイド** TEL:052-249-9387(平日9:00~17:00/郵送可)
そのほか事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日も営業)でもお求めいただけます。
- **チケットぴあ** TEL:0570-02-9999
※サークルK・サンクス、セブンイレブン、中日新聞販売店でも直接お求めいただけます。
※「春風亭小朝 新春独演会」の取扱いはありません。
- **瑞穂文化小劇場** TEL:052-852-7001
※「活動写真弁士・澤登翠の無声映画の世界」のみの取扱い。

主催 **名古屋市文化振興事業団**

公演に関するお問い合わせは事業団チケットガイドまで

アイデアを広げる
ワンランク上の印刷

事業内容

- UVコールドフォイル印刷
- UVホログラム転写印刷
- UVコーター付オフセット印刷
- 一般オフセット印刷
- 3D印刷
- バリエブル(可変データ)印刷
- Mac・Win・DTPデータ作成
- B倍プロッター出力

鬼頭印刷株式会社 Tel.052-681-1701 Fax.052-679-1171
〒456-0073 名古屋市熱田区千代田町3-22 data@kito-net.com www.kito-net.com

舞台映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。
ハイビジョンで撮影し
ブルーレイディスクでお渡しします。

ビデオソフトの企画制作

有限会社 **エーワン・ビデオ・システム**
TEL(052)896-2256 FAX(052)896-4100

WE MAKE YOU MOVE
感動をあなたへ

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。

20Hz ← → **20kHz**

A&V
PRO AUDIO & VISUAL & NETWORK

舞台音響 / 映像設備
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する
株式会社 エーアンドブイ
〒464-0846 愛知県名古屋市千種区城木町二丁目98
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

ナゴヤ劇場ジャーナル

◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。
◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・パレエ・音楽公演、各所顧客DM、他に配布

MP MANAGEMENT PRO 株式会社 マネージメント・プロ
〒464-0850 愛知県名古屋市千種区今池1-14-11 CASA LUZ302
TEL (052) 735-3151 FAX (052) 735-3152 E-mail : mpoffice@pa2.so-net.ne.jp

業務内容

- ①舞台の企画・制作マネージメント
- ②イベントの企画制作
- ③芸術団体のコンサルティング
- ④舞台・イベントの運営